

谷口圭三が目ざす 我が津山の街づくり 2つの目標

- 1 誰もが輝く拠点都市をつくる
拠点都市とは、
満足度の高い都市基盤・都市機能が揃っていること
- 2 基礎自治体として住民の快適な生活圏を形成する
快適な生活圏とは、
きめ細かな支援が行き届いていること

津山新八策の1 拠点都市にふさわしい都市機能が整備された津山へ

① 津山まちじゅう博物館構想

●構想及びアクションプランを策定

まち全体を「屋根のない博物館」に見立て、
地域資源を活かした地域ブランディングに取り組み、
その魅力を市内外に発信する事業。構想とアクションプランを
策定し、コンソーシアム（共同事業体）を立ち上げて始動。

●津山城・城下町泊プロジェクト

コンセッション（公設民営）方式採用の
3例目。市内に点在する歴史的文化財
(鶴山館、迎賓館、余芳閣、旧梶村家
住宅)を改修し、価値を高めて分散型
ホテル等に活用することで、賑わい
創出及び歴史的資源保存も。(改修工
事完了後R8.11オープン目標)



津山城

●津山まちじゅう体験博を実施

歴史・食・自然など、津山市の特徴的な観光
資源から体験プログラムを造成、実施。情報
発信力を強化し、観光客の増加、周遊促進、
滞在期間の延長を目指して地域活性化を。



旧津山扇形機関車庫

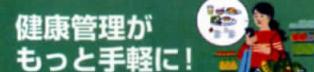
衆楽園

② 津山市スマートシティ構想

●便利で快適な技術や仕組みをいち早く生活に ——7つの分野について取組中——

(1)産業、観光／文化

(2)交通
(3)行政
(4)教育
(5)健康寿命
(6)環境／エネルギー
(7)IT基盤
について、各分野の
目指す姿を明示。
「住み続けたい」と感じ
られる便利で快適な
津山の実現へ。



デジタル
田園都市
国家構想
推進交付金で
導入

●便利になったと感じられるアプリや仕組みを提供

- 母子健康手帳アプリの利用率94.6%以上
- アプリを利用したデジタル予診票の
利用率53.7%に到達
市内11医療機関で利用可能(R6年度末)
- お悔み窓口の来庁予約システムの利用率は8割超
- 食事管理アプリ、健康増進アプリの導入で
食事と運動や生活習慣の両面から
健康寿命の延伸をサポート
- 「AIデマンドバス」「シェアサイクル」
「AIチャットボット」「ごみ分別アプリ」
「デジタルライブラリー(電子書籍貸出サービス)」
「AIドリル(小中学校)」
「電子申請」「来庁予約」など様々なアプリや仕組みを提供



●総合窓口システムや遠隔相談システムの導入

- 市役所窓口での手続き時間が短くなる仕組みを導入
- 本庁に行かなくても済む仕組みを導入

●アルネ・津山の機能拡充

サテライトオフィスやコワーキングスペースを備えた「COTOYADO」を
整備しワーケーション事業等を展開(R4)。リスキリングセンターの
設置(R7)や親子で遊べる場を設置し、賑わいと人の流れを生み
出す取組を実施。



社会実験の
イベントを開催し
広場としての
可能性を検証

国際ホテル跡地と森本慶三記念館との
一体的利活用を検討

●「津山の顔」となるエリアの 景観整備

中心市街地における支援メニュー
を充実し、民間投資を促進
●鶴山通りの空き店舗リニューアル
●商店街への出店支援